


セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.	準絶滅危惧
		イネ科
選定理由	もともと生育地が少ないうえに、河川改修によって低湿地が減少するなど生育環境が悪化している。	写真(奥田浩之)
形態の特徴	稈は、高さ200-400cm。葉身は長さ40-70cm、幅20-40mm、稈と鋭角をなしてつき斜上、先端は細くなり直立する花序は直立し先は傾き、長さ30-70cm。小穂は3-5小花からなり、長さ5-8mm。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は8-11月。河川敷の水辺など低湿地に生える。セイカタヨシの生育適地は、ヨシよりも乾燥地であり、水中にはほとんど入らず、ヨシ群落の陸側に見られることが多い。	
分布状況	本州から沖縄に分布し、中国大陸からインド、オーストラリアなどに広く分布する。岐阜県では、県南西部にやや稀に見られ分布域は限られる。	
減少要因	河川の改修などの大規模な土地改変によって、本種の生育に適した低湿地が失われている。	
保全対策	河川敷の水辺、低湿地という不安定な場所に生育するため、生育環境の河川敷低湿地そのものを保全する。	
特記事項	木曾三川下流部は、ホソバイヌタデなどの絶滅危惧種が生育する重要な環境である。	
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本 I 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993	

文責:福岡義洋